

卓 話 ●皆木淳一会員

「新会員スピーチ（信用組合・当組合・自身について）」



本日、新会員スピーチを担当させていただく兵庫県信用組合の皆木です。

7月の異動で龍野支店勤務となり、前任の木村に引き続き9月より龍野ロータリークラブに入会させていただいております。

新会員スピーチですが、自分のこれまでを振り返っても皆さんに誇れるような経歴でも人生でもなく、自身の話だけで30分もしゃべれるのか？（いや無理だろう）ということで、スピーチの流れをまずは①信用組合とは？（約5分）、②兵庫県信用組合について（約5分）、最後に③自身について（約20分）と進めていきます。

① 信用組合とは？

金融機関にも様々な業態がありますが、信用組合は“「中小企業等協同組合法」（昭和24年6月1日制定）を根拠法とする中小企業事業者、勤労者等の協同組合組織による金融機関”となります。言い換えれば「地域やコミュニティのための金融機関」となり、主な取引先は地域の中小企業事業者、勤労者。取引には原則組合員となる必要があります。組合員の相互扶助を目的とした非営利の金融機関。基本業務は「預金業務」、「融資業務」、「為替業務」。営業エリアや取引顧客に制限があるため金融機関のなかでも小規模な信用組合が多い等の特色があります。設立の歴史ですが、明治33年の「産業組合法」により信用組合が法制化され、当時は信用金庫という業態はなく信用組合のみが存在していました。その後、昭和26年6月に「信用金庫法」が制定されたことにより当時の信用組合の大部分が信用金庫に移行しました。この当時は営業エリアについて信用組合の方が広いエリアで営業ができたらし、兵庫県全域を営業エリアとしたい当組合は信用金庫に移行せず、信用組合として存続したと聞いています。（現在ではエリアについては信用金庫も信用組合も大きな違いはありません）

先月の飯塚会員の卓話の中で銀行と信用金庫の違いについてお話がありましたが、では信用金庫と信用組合の違いは何でしょう？まず根拠となる法律が違うほかに、会員・組合員資格における事業者の規模に違いがあり、信用組合の従業員300人以下または資本金3億円以下の事業者（業種別に別途制限あり）に対し、信用金庫では従業員300人以下または資本金9億円以下の事業者とされ、信用金庫の方が取引できる事業者の規模が大きくなります。また預金では信用組合が原則組合員からの預入とされているのに対し、信用金庫では制限がありません。貸出金については信用金庫・信用組合とも原則会員・組合員に対する貸出とされており違いはありません。これらの違いから信用組合はより組合員ベースの金融機関で事業者との取引割合が高く、信用金庫は相対的に取引先の規模が大きく、金融機関としての規模も比較的信用金庫の方が大きいと言えます。私の感覚では信用金庫＝地域の発展に貢献、信用組合＝組合員の発展に貢献、といった感じでしょうか。

② 兵庫県信用組合について

名称：兵庫県信用組合（略称：けんしん）

本店所在地：神戸市中央区栄町通 設立：昭和 26 年 3 月

預金量：4,288 億円、融資量：2,548 億円、店舗数：24 店舗、役職員数：322 名

営業区域：兵庫県一円。(令和 5 年 3 月末現在) 支店は神戸の本部・本店を中心に、北は豊岡、東は尼崎、西はたつの・新宮と兵庫県一円に店舗展開している金融機関です。

③ 自己紹介

自宅：加古川市、身長：172.5 cm、体重：68.0 kg、足のサイズ：27.5 cm、血液型：A 型、家族構成は妻（45 才）と二人暮らし、出身（実家）は揖保郡太子町です。妻とは職場結婚で、現在も神戸市長田区の当組合大橋支店に勤務しています。結婚当時、私が龍野支店、妻が兵庫支店に勤務しており、お互いの通勤を考慮しそれぞれの職場への中間地点となる加古川市に住むことにしました。

私は揖保郡太子町にて出生。小・中・高校とも太子町内の学校に通学し、小学校では硬式野球、中・高ではテニスに明け暮れる毎日でした。その後、大学へ進学したのちも体育会でテニスを続け、平成 8 年 3 月に卒業後、兵庫県信用組合（龍野支店）へ就職しました。初出勤時には電卓に加え、そろばんを持って出勤したのを覚えています（時代の流れを感じます）。最初の配属である龍野支店は、のちに現在まで通算 4 回勤務することとなる非常に思い入れの強い支店ですので、ここで少し龍野支店の紹介もしたいと思います。龍野支店は昭和 29 年 5 月 18 日の開設（来年 70 周年を迎えることから周年行事を検討中）で、当初は川西地区の龍野町大手で開設。昭和 30 年頃には同じく龍野町大手のヒガシマル醤油(株)元本社工場と大手交番の間に移転（今は更地）し、昭和 40 年代後半には龍野町立町の現中央公民館駐車場にあった太陽神戸銀行の店舗を譲り受け移転。昭和 61 年 11 月に川西地区を離れ現在の店舗に移りました。

自身の話に戻りますが、新入職員として龍野支店配属後、初めての転勤で稲美支店へ、その後平成 17 年に三宮支店へ転勤。田んぼと山ばかりのところから街に出て戸惑うことも多々ありましたが、法人営業・事業性融資推進が業務の中心となり自身を一段レベルアップさせてくれた転勤となりました。その後、2 度目の龍野支店、さらに新宮支店と転勤ののち、大橋支店（神戸市長田区）へ異動。同支店では阪神・淡路大震災から約 20 年が経過してもなお震災の影響が残り、震災復興融資のリスク・更改手続きや震災復興の途上にある事業者さまの資金繰り支援・経営支援等に尽力しました。その後、3 度目の龍野支店勤務を経て、平成 31 年に六甲道支店へ支店長として転勤しました。六甲道支店は平成 24 年オープン（現在開設 11 年）の当組合の中で一番新しい店舗で、オープン時より融資特化型のモデル店舗として預金の取扱いは窓口のみ、外回り営業担当は預金・集金業務を一切行わない店舗として、とにかく融資案件の獲得に走り回りました。結果、ちょうどコロナの感染拡大によるコロナ関連融資の取扱い等の要因はあったものの、融資残高は六甲道支店着任時の 80 億 7 千万円から転勤時には 108 億 7 千万円まで 4 年半の在任期間で 28 億円増加し、同店開設当初からの目標であった開店 10 周年での融資残高 100 億円達成を 1 年前倒しでクリアすることができ非常に充実した 4 年半を送りました。その後、この度 7 月より 4 度目の龍野支店勤務となるとともに、9 月より龍野ロータリークラブへ入会させていただき、自分自身業務面でも人間的にもより成長すべく日々精進の毎日を過ごしています。

最後に、新入会員としてまだまだ不慣れな点多々ありますが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

本日はご清聴ありがとうございました。